

羅針盤

令和5年度 第10号 (通算357号)

令和6年1月10日 (水) 発行

岡山県総合教育センター 企画部

Tel (0866)56-9102 Fax (0866)56-9122

PBLのススメ—PBL実践のポイントはこれだ!

～「第3回PBLリーダー研修講座 兼 PBL実践報告会」を終えて～

全3回の日程で行った県総合教育センターの専門研修「PBLリーダー研修講座」第3回を「PBL実践報告会」(オンライン)として開催し、多くの方々に参加いただきました。今号では、本報告会で紹介されたアイデアや知見とその成果についてまとめました。実践の流れを、下図の①・②・③の順に示します。

羅針盤バックナンバー350号・354号も含め、取組の参考にしてください。

3 見られた子どもの姿



自分事化し、主体的に学んでいく

「どうしてそうなるか知りたい」「分かったことを伝えたい」「感謝の気持ちや考えたアイデアを形にしたい」

他者を理解し、協働へ

「発表やまとめに向かう過程でグループにまとまりができた」「役割分担により、一人ひとりの得意なことに気づいた」「対話により、お互いを理解し合えるようになった」

教科の学びを活用する

「教室での学びを実生活に生かせそうだ」「生活と結びつくことで、教科を学ぶ意義について考えるようになった」

非認知能力が伸びる

「失敗を恐れず、いろいろなことに挑戦したい」「練習を積んで、もっとうまくなりたい」



PBLリーダー研修講座へは、「PBL推進リーダーとして何ができるか」という問いを立てて参加しました。PBLの実践に組織的に取り組むことで、子どもが理想像に近づいていく実感がありました。(中学校A先生)



PBLリーダー研修講座は、「子どもの学びと相似形」の講座でした。本物との出会いにより、わたしたちが感じたように子どもたちもワクワクし、主体的な学びへと発展していきました。(小学校B先生)

2 意図をもって「仕掛ける」

「本物」と出会う

地域をよく知る人、学区内の歴史遺産、観光地、地元企業等の「本物」と、教師側がねらいをもって、意図的な出会いをつくる

自己決定する

情報収集の仕方、まとめの仕方、発表の仕方等、自ら選択する場を設定し、教師は「伴走者」として、子どもたちの学習を支える

PBLを実践して、たどりついた答えのひとつが「自己決定」。教師が言いたいことを我慢して子ども自身に考えさせ、選ばせる。伴走者として支援する姿勢が大切です。(小学校C先生)



1 校内でPBLを推進するために

- ・学校教育目標をもとに「目指す子ども像」を具体化するところからスタート
- ・PBLについてのとらえや実践の方向性を教職員間で共通理解(校内研修等の活用)
- ・「失敗を恐れない」という姿勢でPBLにチャレンジするマインドとリーダーシップ
- ・「PBL実践通信」の発行等による同僚への問題提起と意識の醸成

これらの資料も併せてご利用ください!



岡山型PBLガイドブック(義務教育版)



PBLガイドブック(高校版)



PBL(課題解決学習)等関係動画・資料 <総合教育センターHP>



羅針盤バックナンバー